

免許返納の高齢者アシスト

電動 車いす カート 脚光

運転免許を返納する高齢者が増える中、車に代わる新たな移動手段として、電動車いすや電動カートが注目されている。5月施行の改正道交法で高齢ドライバーの免許更新の手続きが厳しくなり、車なしで生活する高齢者は今後も増える予想される。都市部での新たな「足」として活用が進みそうだ。(大島宏一郎)



家電量販店で販売も
=千代田区のビック
カメラ有楽町店で

「八十代の両親も足腰が弱くなった。いつか必要になるかもれない」。家電量販店のビックカメラ有楽町店。入り口近くに置かれた電動車いすを見た五十代の男性客「港区はつがやいた」。

この電動車いすは、最高時速6kmで走る四輪の乗り物で、ベンチャー企業「WHILL(ウィル)」（品川区）が

近距離の移動用に開発した。取扱店は、自動車ディーラーなど七百店超。ビックカメラ有楽町店では六月から販売を始めており、通常モデル(約四十八万円)と折り畳み式(約二十七万円)を展開している。

ウィル広報の新员工さん

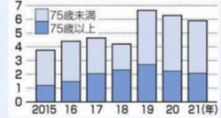
は「四十一世代の息子が両親へのプレゼントとして買うケースが多い」と話す。同社ホームページでの試乗予約数(五月十三日・六月十二日)も、道交法改正前(四月十三日・五月十二日)の四倍に増加。「歩きづらさを感じる高齢者などが免許返納後の移動に使っている」(新员工さん)



◎電動車いすタイプの乗り物「WHILL(ウィル)」を使う高齢者—WHILL提供
◎高齢者の送迎業務で活用される電動カート。車両を提供する「モビリティワークス」の西社長は事業への思いを語る—町田市で



75歳未満
75歳以上



「バスが通れない狭い道多い」都市部で活用期待

高齢者の移動支援に電動カートを使う事業は、千葉県松戸市も今秋から始める予定で、杉並区も二〇二四年度の実施を目指す。

こうした動きを、東京大学公共政策大学院の三重野真代・特任准教授は「都市部では住宅密集地や郊外型団地を中心に、バスが通れないほど狭い道が多いため、歩行困難になると移動手段がなくなりやすい」と指摘。「車いすやカートは、今後増える「移動弱者」の新たな足になる」と期待する。

高齢者の「足」となるのは車いすだけではない。時速十km未満で走る電動カートも扱う「モビリティワークス」(町田市)は、同市の鶴川団地で暮らす高齢者の送迎サービスに取り組み。多摩丘陵に立地する団地では住民から「坂道の上下りが大変」との声が多く、同社の西利也社長(左)は「免許を返納した高齢者が商店街で買い物を持ち帰れるようにしたい」と話す。

高齢者の免許返納 加齢に伴う体力などの変化を感じた高齢ドライバーが運転免許を自主的に手放すこと。今年5月13日に改正道交法が施行され、逆走など違反歴のある75歳以上は、新設された「運転技能検査」に合格しないと免許を更新できなくなった。このため、免許返納の流れは今後加速するとみられている。